

<新シリーズ Iasa グローバル WEB サイト掲載記事の紹介>

発行日：2018/2/20

by: 梶川哲生 (Iasa 日本支部・代表理事)

— 新しく WEB サイト掲載記事の紹介を始めます —

読者の皆様、

Iasa 日本支部では、IT アーキテクトとアーキテクチャに一層の関心を持って頂くため、Iasa グローバル (本部米国) の WEB サイト上に掲載されている記事・投稿の一部の日本語訳を定期的に配信していく事にしました。今回はその第 1 号になります。

現在 Iasa グローバル (<https://www.iasaglobal.org/>) 上には、実践で活躍中の世界中の多くのアーキテクト達からの新しい投稿や見解が毎月掲載されていますが、現在は英文のみで日本語訳は提供されておられません。(注：2017 年末までは Iasa 日本支部が提携する外部の自動翻訳サービスを利用していました) 日本の皆様に関心が高いと思われる英文記事をいくつか選んで日本語訳を定期的に配信していく事にしました。

この配信にあたり、読者の皆様に予め翻訳品質の点でご了承頂きたい点があります。

翻訳にあたっては、英語原文を Google 社提供の無料翻訳機能を利用し、日本語訳の用語の間違いと読みづらい箇所を中心に校正と編集を行なっています。従って、この翻訳文は原文の主旨が理解出来るレベルの翻訳である点を了承の上ご利用下さい。

皆さんにご紹介したい投稿や記事も大変多くあるため、このシリーズを楽しみにして頂ければと思います。

【第 1 回目の投稿記事サマリー】

第 1 回の記事の紹介は「IT アーキテクト、エンタープライズ・アーキテクト、それともデジタルアーキテクト?」という題で、IT アーキテクトの役割や種類、これから益々加速するデジタル化社会のニーズが高まる中、IT アーキテクトがどのような貢献をする機会があるかをアジアの国々のマーケットと動向に詳しい Aaron 氏による展望を紹介します。

原文著者紹介：Aaron Tan Dani 氏はデジタル変革の EA 分野において特にアジア地区で広く尊敬されているリーダーであり、デジタル変革 EA の採用を積極的に推進しています。現在はシンガポール・コンピュータ・サイエンス EA-SIG 会長、Iasa Asia 地区会長、及び、ATD ソリューション社の CEO 兼チーフアーキテクトを担っています。

< 第1回 >

IT アーキテクト、エンタープライズ・アーキテクト、それともデジタルアーキテクト？ (An IT Architect or An Enterprise Architect or a Digital Architect?)

記事原文ソース：<https://www.iasaglobal.org/an-it-architect-or-an-enterprise-architect-or-a-digital-architect/>

私の様に、もしあなたがこの「業界」に長い間いるとしたら、IT とビジネスの世界の両方を跨ぐ必要がある「人」に出会った事がきっとある事でしょう。

(訳注：「デジタルアーキテクト」は、組織のデジタル変革（トランスフォーメーション）を担うアーキテクトという意味で著者が使っています。)



その「人」とはどんな人？

その「人」がビジネスについて会話をする場合、多分その「人」の名刺には「エンタープライズ・アーキテクト」または「IT アーキテクト」または「デジタルアーキテクト」という役職名が付いている可能性が高いでしょう。もしくは、公であれ非公式であれ、正式な名刺の役職名以外に「ビジネス・アーキテクト」、「情報/データ・アーキテクト」、「アプリケーション/ソフトウェア・アーキテクト」、「テクノロジー/インフラストラクチャー・アーキテクト」、「ソリューション・アーキテクト」等、2つの役割を兼務する場合があります。

今日多くの場合、「アーキテクト」としての仕事の範囲や内容を深く理解した上で関連する資格を持っていない場合でも多くの人が「アーキテクト」の役職名を与えられているため、この事がアーキテクトが行うべき作業を困難にしている場合が見受けられます。今日、大変多くの組織があらゆる所で「デジタル化」が推進されており、そのために「アーキテクト」が一步前に踏み出し組織と共に前進するための差し迫った時期はかつてありませんでした。

このような状況を考慮した上で、Iasa 本部による「すべての IT アーキテクトのためのグローバルな協会」(Global Association for All IT Architects) は、エンタープライズ・アーキテクト(EA)の役割の「標準と認定」を正式化するべく努めています。この活動を通じて、しっかり定義された持続可能なキャリアパスを有する業界のエンタープライズ・アーキテクチャーの専門家として正式に認知される事に繋がります。

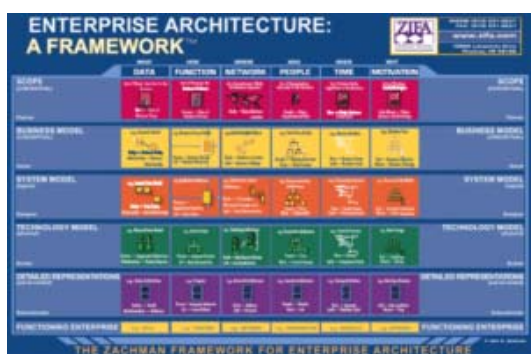
歴史

エンタープライズ・アーキテクトの人達はかなり以前からこの業界で活動しています、他の多くの専門的な職業に比べると比較的新しいものです。その結果、エンタープライズ・アーキテクチャーに関わる専門的職種についての正式な標準や職種の定義やスコープは、ずっと最近になるまで普及しませんでした。

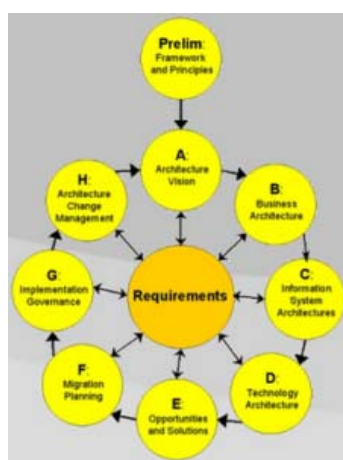
幸い、ザックマン・フレームワークのジョン・ザックマン氏によって、1990年代初めにエンタープライズ IT の初期の採用者の間で「エンタープライズ・アーキテクチャ・フレームワーク」という用語が普及しました。これに続き、1990年代半ばには EA 開発方法論を強調した The Open Group Architecture Framework (TOGAF) が続きました。(参照リンク：<https://ja.wikipedia.org/wiki/TOGAF>)

その後、私達 Iasa (Iasa Global) では、2000 年後半に ITABoK (IT Architecture Body of Knowledge) を紹介しました。これは専門のトレーニングと認定プログラムの一環として提供したアーキテクトに必要な「スキルセットの要件」を通じて、「エンタープライズ・アーキテクト」を正式な専門的な職業とするためのものです。

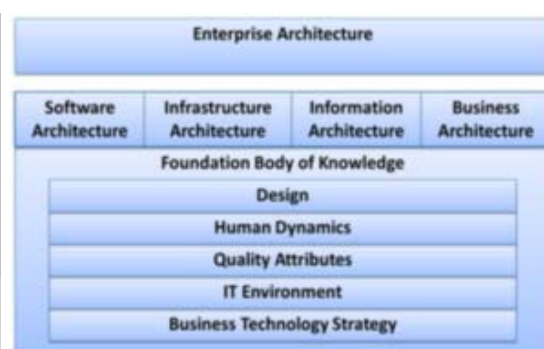
次の図は、Zachman フレームワーク、TOGAF フレームワーク、および IASA の ITABoK を示しています。



(出展：ザックマン・インターナショナル社資料より)



(出展：オープン・グループ資料より)



(出展：Iasa ITABoK より)

この記事では主に Iasa の ITABoK のスキルセットに焦点を当てます。このスキルセットは、広く認識され持続可能なキャリアパスを持ち成功するアーキテクトになるためのコンピテンシーの要件を定義する事を支援します。

上の図で説明した ITABoK の 5 つの柱は、5 つの基礎スキル分野に焦点を当てており、「ビジネス・テクノロジー戦略」、「ヒューマンダイナミクス」、「IT 環境」、「品質属性」、そして「デザイン (設計)」で構成されています。

この中の「ビジネステクノロジー戦略」は、「アーキテクト」をその他の IT の専門家と差別化する点が特に綿密に位置付けられており、全ての各種のアーキテクトの活動を関連するビジネスに結びつけるという非常に重要な役割を担っています。

現在は...

エンタープライズ・アーキテクトは、ビジネスと IT の両方を担わなければならない、IT がどんな事を実施しようとそのビジネス戦略を実現しなければなりません。したがって、エンタープライズアーキテクトは、戦略計画委員会等に参加して支援する必要があります。

また、企業全体に及ぶすべてのビジネス領域と IT の取り組みの溝 (トラブルシューティング)、及び完全なトレーサビリティを容易にする「デジタルエンタープライズ・マップ」の作成をする必要があります。とりわ

け、「アーキテクチャレベルのソリューション」を通じて、高度なビジネス戦略の間のギャップを埋める必要があります。

Iasa の ITABoK では、5 つの EA 専門分野を定義しています。即ち、「ビジネス・アーキテクチャ」、「情報アーキテクチャ」、「ソフトウェア・アーキテクチャ」、「インフラストラクチャ・アーキテクチャ」、「ソリューション・アーキテクチャ」です。

ビジネス・アーキテクトは、ビジネス戦略の中でテクノロジー戦略を支援するためにビジネスがどのように構成されているかを文書化するための共通のエンタープライズレベルのビジネス言語とフレームワークに焦点を当てます。

情報アーキテクトは、情報の保管、回収、配信、分類、利用などの情報リソースのマネジメントに注力し、株主価値を最大限に引き出すとともにテクノロジー戦略をサポートします。

ソフトウェア・アーキテクトは、ソフトウェアとソリューションの実装に関する技術戦略の提供と開発に重点を置いています。

インフラストラクチャ・アーキテクトは、開放型システム間相互接続（Open System Interconnection）、または OSI の 7 層モデルの最下位 4 層に重点を置いており、運用、ネットワーク・エンジニアリング、サーバーサイジング、ストレージ管理、バックアップ&リストア技術、ディザスター・リカバリー、および物理的なデータセンターの設計を支援します。

ソリューションアーキテクトは、ビジネス/情報/ソフトウェア/インフラストラクチャ・アーキテクチャからの情報に基づいてソリューションを提供することに重点を置いており、PMO（プログラムマネジメント・オフィス）が実施する IT プロジェクトを通じてアーキテクチャを実現します。

しかし確かな事は、今日のエンタープライズ・アーキテクトは、従来の狭い領域のスコープや役割からより広いエンタープライズレベルの役割を持つべく変遷しています。この変遷の中には、ビッグデータ分析、IoT、クラウドの仮想化テクノロジー等の最近のデジタルテクノロジーのトレンドが含まれます。

ガートナー社は、2025 年までに、エンタープライズ・アーキテクトは、組織内でプロセス、ネットワーク、依存関係を設計するだけでなく、所属する組織の外部を含むエコシステムを組み込むことになると予測しています。



Summary

Digital business is altering and broadening industries, businesses and people. EA practitioners will expand their perspectives beyond an "enterprise" to deliver business outcomes and leading response to disruptive trends with the context of a broader ecosystem of customers, partners and competitors.

概要

デジタルビジネスにおいては、業界、企業、人々を変え、その領域を広げています。EA の実践者は、ビジネスの成果を提供するために「企業の枠」を越える必要があり、また、顧客、パートナー、競合他社より広範なエコシステムの視点を通じて、この破壊的な傾向対応をリードする必要があります。

(出展 : <https://www.gartner.com/doc/2867418/future-ea--evolving-enterprise>)

訳/編集者注) 上の右の日本語訳はガートナー社による正式な翻訳ではありません。

あくまで本記事の参考情報として掲載しています。

今後に向けて...

今日のデジタル化の環境は、デジタルを中心に置くエンタープライズ・アーキテクトの役割に新たな次元を加えました。デジタル・エンタープライズ・アーキテクトは、エンタープライズ・アーキテクチャの取り組みを通じて組織内のデジタル変革をリードする事を担っているのです。

デジタル・エンタープライズ・アーキテクトの役割はこれまで以上に重要になりつつあり、どの業界のどんな組織や企業、政府機関であれ、担当するチームではないにせよ誰かがエンタープライズ・アーキテクトとしての役割を果たす必要があると確信しています。

実際のところ、今日多くの組織はこの役割をまだ持っておらず、急速に変化するデジタル時代に生き残り競争に日々予測できない混乱に直面しているのです。

実際、アーキテクトを採用し、組織内に正式な EAO 組織 (Enterprise Architecture Office) を設置する事の緊急性は、このデジタル時代に勝つためにその組織に大変戦略的なアドバンテージを与える事でしょう。

デジタル・エンタープライズ・アーキテクトは、モチベーション&戦略レイヤーからビジネスレイヤー、アプリケーションレイヤーからテクノロジーレイヤー、実装の移行レイヤー、またはその逆の複数のレイヤーにわたるデジタル EA マップの作成を通じて、ビジネスと IT の統合を担います。

その上で、適切な投資プロジェクトのポートフォリオは、IT リソースを最大限に活用し計画されたビジネスの結果を達成すべく、IT プロジェクトを通じて PMO によって計画的に実行する事が可能になるのです。

組織のデジタル化の支援に留まらず、デジタル・エンタープライズ・アーキテクチャマップを活用して全体のトレーサビリティを可能にし、エンタープライズレベルのギャップの修正機能を有効にすることが出来るという点が、私がエンタープライズ・アーキテクトの役割が非常に重要であるとする理由です。

記事英語原文 :

By Aaron Tan Dani

- End -